

■■■ 生活福祉資金貸付制度の在留資格制限について ■■■

今年1月、神戸市東灘福祉事務所のケースワーカーの紹介で在日ペルー人の派遣切り家族の相談を受けることになりました。相談内容は派遣会社の寮を出ざるえなくなったペルー人家族の住宅確保と仕事の相談でしたが優先する問題として住宅の確保をめざすこととしました。

住宅確保に必要な当座の敷金など住宅確保資金の借入先をあたっている中で市町村の社会福祉協議会が窓口となっている生活福祉資金制度の活用を考え、神戸市社会福祉協議会に在日外国人への貸付の可否の確認をしたところ、生活福祉資金の審査は兵庫県社会福祉協議会が行い市町村社会福祉協議会は窓口のみ実施しているとの返答がありました。

そこで兵庫県社会福祉協議会に在日外国人への貸付の可否の確認をしたところ、担当の岸田氏より制度が貸付制度であることから外国人の場合、「永住者」のみを貸付対象者にしているという回答でした。また「永住者」のみを貸付対象者にしていることは、兵庫県社会福祉協議会ホームページの生活福祉資金制度の案内にはないことから在留資格による実務上の取り扱い実態とその根拠について訊ねたところ、在留資格の制限を明記している文書はなく申し込みの手続きの時点で外国人登録証などによって確認、制限しているということ、また外国人を永住資格者のみに限定している根拠は厚生労働省との生活福祉資金に係るQ & Aにおいて、

Q：「日本に居住する外国人に対して貸付けを行うことができるか。」

A：「①外国人登録が行われていること、②現在地に6ヶ月以上居住し、将来とも永住する確実な見込みがあること」

という条件どちらも該当する場合という返答が根拠になっているということでした。

しかし、現に大阪府の社会福祉協議会などにおいては、在日外国人の生活福祉資金の貸付は「永住者」のみでなく、「定住者」まで貸付対象とされていることから、3月4日に厚生労働省社会・援護局地域福祉課に生活福祉資金の外国人制限について問い合わせ連絡を行いました。

電話の問い合わせに対応した厚生労働省社会・援護局地域福祉課梁瀬氏は、生活福祉資金の趣旨が困窮している世帯に資金を貸し出し最長20年間の償還期間で返済してもらうという長期間の地域在住者への貸付資金であることから「将来とも永住する確実な見込み」が貸付条件という回答をしているということでした。しかしあくまで貸付条件については趣旨を理解した上で各社会福祉協議会が決定することであり、大阪のように対象者を「永住者」だけでなく「定住者」まで対象とすることを厚生労働省としては関与しないということでした。

兵庫県社会福祉協議会ホームページの生活福祉資金貸付制度を説明するページの頭には、下記の説明文が載っています。

「生活福祉資金貸付制度は、他の貸付制度が利用できない低所得世帯や障害者・高齢者世帯の生活を経済的に支えるとともに、その在宅福祉及び社会参加の促進を図ることを目的とした制度です。また、この制度は単に資金の貸付けを行うものではなく、市町村社会福祉協議会やお住まいの地域を担当する民生委員が、さまざまな過程で援助・助言がある場合があります。」

社会福祉の後退が言われていますが、このように社会的弱者に援助の手がさしのべられていることをみると日本にはまだセーフティネットがあると感じます。ただこのような弱者援助の制度が、雇い止めや派遣切りに苦しむ日系ペルー人や難民として来た在日ベトナム人等の多くが持っている在留資格、「定住者」に適用できない実態をみるといまだ日本の社会保障は、外国人に門戸を開けていないとも思えます。

厳密に言えばこのように「定住者」が生活福祉資金の貸付から除外されることは社会保障の内外

人平等を規定した難民条約にも反することであり、在日ベトナム人らインドシナ難民受入れ時にせつかく整備された社会保障の内外人平等に向けた歴史を後退させることになるでしょう。

「他の貸付制度が利用できない低所得世帯」が多い「定住者」が、生活福祉資金貸付制度を活用できるよう国や各地の社会福祉協議会へ早期に取り組みを進めることが必要です。

生活福祉資金のメニューには生活資金だけでなく、修学資金もあり低所得世帯に属する者の高等学校、大学又は高等専門学校の修学経費や入学時の修学支度費の貸付を学校卒業後、半年間据置20年以内に返還できるというものもあります。生活福祉資金の在留資格制限の拡大は、お金のために進学や修学を諦めている子どもをなくすことにもつながります。

厚生労働省も明らかにしているように在留資格制限は各社会福祉協議会の判断で改善が可能であり兵庫県社会福祉協議会に要望を早急に進め対象の拡大をはかっていきます。また同時に国・厚生労働省に「将来とも永住する確実な見込み」という回答の見直しを含め、現在の在日外国人居住実態にあった福祉貸付金制度の改善を求めたいと考えています。

---

## ■■■KFC日本語プロジェクト■■■

### ◆入門クラスを担当して

KFCで日本語の入門のクラスを担当して3年目になります。思い返せば最初の年は本当に大変でした。授業の準備にもたくさんの時間がかかったし、授業中もいろいろと失敗しました。一回目の授業からローマ字表記もなく平かな、カタカナ、漢字がすべて入っている教科書を全く日本語の文字がわからない人に読ませていました。でも今はいくらか余裕ができて、学習者の事も考えられる様になりました。

普通、働いている日本人が外国語を習おうとすると、まず授業の最初の日には筆記用具とノートは持って行くし、教科書もすぐにもうと思えます。また先生にもらったプリント類は溜まってくるとファイルに整理すると思えます。しかし私の担当する学習者を見ると、そういう人もいますが、半分以上の人はなかなかきっちりできていません。中には何も持たずに来る人もいました。そこで思ったのは、できないのではなくて、どうやって勉強していいのかわからないのだと気が付きました。そこで今年からは、宿題などのプリントを入れるファイルを渡して整理させる様にしています。また板書もあとで見てわかる様に工夫しました。学習者が板書をノートに写す時、時間がかかるので写している間は何も話さずにじっと待つ事にしました。一年目は書きながら話していたし、学習者が書いている時も話していましたが、今思うと入門の学習者にとって書きながら聞くという事はどれほど難しいか、自分が逆の立場だったらと思うとよくわかりました。

今年は学習者の集まりが悪く、予定より一週間遅くスタートしました。一年目は、平かな、カタカナは自分で覚えるものと思っていましたが、それでは覚えないので昨年からは授業中に練習を始めました。まだまだ日々試行錯誤する事はありますが、根気よく教えていく事が大切であると思っています。(西本 一徳)

### ◆新ボランティア紹介

昨年5月から日本語ボランティアを始めて丸1年になります。今は初級のベトナム人の支援をしています。楽しく分かりやすくするため、準備は欠かしません。その甲斐あって、毎回とてもいい雰囲気です。90分があつという間です。本当にやり甲斐のある活動だと思います。(野上 裕子)

昨年12月から日本語学習支援に参加しています。最近ようやく慣れてはきたものの、まだまだ

思考錯誤しながら通っています。学習者や他の支援者の方とのふれあいはとても学ぶことが多く私にとって非常に貴重な時間となっています。これからもがんばります。(藤井 妙子)

KFCでベトナム人の学習者さんと活動を始めてからもうすぐ一年です。お互いの文化や習慣の違いを学ぶだけでなく、家庭菜園や飼っているウーパールーパーの話等をしながら楽しく活動しています。他のボランティアさん達との交流も楽しみの一つで、トレッキング第2段を計画中です!(山田 綾子)

#### ◆レベルチェック

4月21日、二ヶ月に一度のお弁当ミーティングがありました。お弁当持参で、食事をしながら日本語支援での疑問や困っている事などを話し合いましたという気楽な集いです。

その中で、今回は聞きたいという要望のあった「レベルチェック」について、山村さんが話してくださいました。初めての人をどこからスタートすればよいか、今後の授業に役立てるために、読む、書く、聞く、話す、についてチェックするものです。具体的な方法などを交えて話されました。結局レベルチェックは必要ですが、チェックをするという厳しいものではなく、学習者によって個人差や希望があるのですから、自分で考えて、相手を見て、どんな方法で学習を進めていけばよいか、の、目安にするくらいでよいのではないか、ということでした。出席者は11名、新しく支援に登録された方2名が参加されました。それぞれの現在の状況を話題におしゃべりしました。次回は6月23日です。

中々おはなしをする機会のない支援者同士、悩みなどを共有して楽しい支援につながるとういんですね。(ニュース係 谷先晴代)

---

### ■■■ K F C 外国にルーツを持つ子どもの学習支援 ■■■

#### ◆高校進学状況と近況報告

KFCで学習していた中学3年生4人が4月に無事高校に合格しました。推薦入試で公立高校1名、他は一般入試で公立高校2名、私立高校に1名合格しました。うち1名は渡日約1年で公立高校に合格しました。

高校に合格できても入学金の準備に窮したり、高校からの手紙の内容が分からず度々訪ねてきたり、せっかく入学できても留年したり、授業についていけず退学したり、親や友達との関係が築けずKFCを訪ねてくる高校生もおり、高校に合格したからといってまだまだ不安なことばかりです。先日行われた定住外国人子ども奨学金事業の交流会でも奨学生の高校生たちが情報を思った以上に入手できていないことに驚きました。

以上のような問題を少しでもサポートできるような仕組みや体制を定住外国人子ども奨学金実行委員会事務局のメンバーなどとも連携して検討したいと思っています。

しかし、サポートがまだまだ不十分であるにも関わらず、行政関係は日本語などの予算を削減し、支援は一層厳しさを増しています。海外から人材を流入させるのではなく、地域に住む外国人を活用し地域を支える人材となってもらえるような仕組みやサポートを充実させるべきだと思います。都合良く外国人を受け入れるのではなく、子どもも大人も日本語が学習できる環境を整え、職業選択の幅を広げられたり、万が一職を失っても職探しができる日本語力をつけられるよう、予算の確保・拡充に努めてほしいと切に願っています。(志岐 良子)

#### ◆2008年12月に渡日して

ベトナムからきたホアンと言います。

2008年、16歳の時に日本に行きました。当時、何気なく親からいきなり「日本に來い」と呼ばれて、知らなくて、びっくりしました。生まれてからずっとベトナムで育ってきて、友達も皆ベトナム人なので、文化はベトナム文化、言葉はベトナム語で、日本に來てどうするのか不安でいっぱいでした。そして故郷を後にして、12月15日の寒い日に日本に來ました。

日本に來て、一番やりたいことは学校に行くことでしたが、思ったより物事がうまくいきませんでした。親は日本語ができなくて、「そんなまだ学校に聞いてないわ。もうすぐお正月だから学校も休みだし、お正月が終わって通訳してくれる人もいるし、それまで待つてな」と言われました。すると、学校に行けるかな？行けなかったらどうなる？就職するか、または夜間学校に行くかと心配でした。友達は皆学校に行っていて、勉強していて、学校生活を楽しんでいるのに、自分が今、学校に行けなくて、日本語が分からなくて、勉強もできなくて、将来が暗くなっているいろいろなと思って、悔しい日々が続いていました。

やっと学校に編入できるか聞きに行きました。校長先生によると「一か月以内に返事が返ってくる」とのことです。その間、学校の勧めでKFCに通い始めました。最初KFCってどんな所？どのように学習するのだろうか？と色々考えていましたが、実際にKFCで勉強して、先生もやさしく教えてくれるし、友達もできるし、楽しく遊べるし、すごく良いところだと思いました。

2週間後、学校に行くことになりました。本当にほっとしましたが、日本語が分からなくて、学校に行ってどう勉強すればいいのか？友達に話しかけられたら、どうやってコミュニケーションを取ればいいたろうかとまた悩んでいました。最初は友達は話しかけてくれましたが、やはり思った通り、どんどん時間が経つにつれて、日本語を理解できないから誰も話しかけなくなりました。学校に行って、誰とも話さなくて、周りは日本語ばかりなので、雑音にしか聞こえませんでした。それだけではなく、毎日、次の日の時間割が書いてあるのに分からなくて、毎日準備ができなくて、できるだけカバンに教科書、体操服等を入れて持っていったので、すごく重かったです(笑)。毎日、みんなはプリントやノート宿題をもらったり、提出したりしていましたが、僕だけは何もしなかったの、何だか恥ずかしかったです。そういう苦しくて辛い日々が続いていました。その中で、一生懸命日本語を勉強して、やっと4ヶ月ぐらいたって分かり始めました。

そして、高校入試対策も学校でやっていました。数学と英語が一番点数を取れて、学年トップになりましたが、国語、社会、理科が覚える日本語の量が多すぎて、なかなか点数を取れなかったの、トップの高校に行けませんでした。神戸市立神港に進学しました。

入学したばかりなので、まだ馴染んでいなくて、友達作りなんてできるかなと不安ですが、日本人の友達や親友を作りたいので、頑張っていきたいと思います。

今まで日本にきて、先輩もいなかったし、ほとんど自分でやってきましたので、ものすごく大変でした。それで、後輩たちに少しでも何か役に立つことができたらと考えています。

(グエン フウ ホアン)

---

## ■■■ ハナの会 ■■■

### ◆あんしんすこやかセンター勉強会

4月11日(土)に長田在宅福祉センターの松野貴美さんにお越し頂き、勉強会がありました。以下は、その概要報告です。

介護予防推進の重要性とは

○今後、超高齢社会が到来することにより高齢者人口が大幅に増加し、より高齢な高齢者の割合が高くなっていくことが予測される

○超高齢社会においても、多くの高齢者が生き生きと暮らすことが社会全体の活力を維持することにつながり介護保険制度の持続性の確保につながる

○超高齢社会の入り口である「今」から介護予防に取り組み、定着を図る必要がある  
予防介護サービスを受けるまでの流れ

- 1、あんしんすこやかセンターに相談
- 2、介護予防事業に参加することが望ましいと判定された方
- 3、あんしんすこやかセンターで「予防介護ケアプラン」作成
- 4、介護予防サービスの利用

介護予防ケアマネジメントの考え方

○軽度者の特性を踏まえたサービス提供

本人が出来ることは出来る限り本人が行うこと

○目標指向型のサービス提供

目標指向型とは、目の前の不自由さをただ補完するために介護するのではなく、その人の一生を考えて介護の方法を考える。そのためには、サービス評価を行いながら今後を正しく捉えることが非常に大事

○意欲を喚起する

サービスの受け手から主体的に取り組みを行えるように意欲が持てるよう導く

あんしんすこやかセンターの地域の中での役割がよくわかりました。介護職員の一人として、今後の仕事に役立てたいと思います。(スタッフ 林 亜也佳)

## ◆ハナの会！！春のお花見

今年の4月7日、9日の2日間に分けて妙法寺川公園へお花見に行ってきました。

今年は寒い日が続いて桜の咲く時期が遅れたので、桜満開の中2日間ともお花見をすることができました。今年はみなさんの希望が多かった、焼肉バーベキューをしました。ハルモニたちからは、「美味しい、美味しい」と言う声が聞こえてきました。

その後はチャンゴに合わせて歌ったり踊ったりして楽しい時間を過ごすことができました。チャンゴの音を聴いて足を止めて見ていた人や、歌を口ずさみながら通り過ぎていく人たちもいました。

別のところからお花見に来ていた方からは、「楽しそうですね」や「みなさんお元気ですね」という声も聞こえてきました。

後日、お花見の時の写真を見て、みなさんが「楽しかったね」と笑顔で言ってくれました。同胞の方と、春にはお花見、秋には遠足などをして、チャンゴに合わせて歌ったり踊ったりして楽しい時間を過ごしていただくことをこれからも続けて行けるように出来ることをしていこうと思います。(スタッフ 林 亜也佳)

---

## ■■■ 今後の予定 ■■■

### ■総会&学習会

6月19日(土)

17:30~19:00 学習会

「イギリスの市民性教育の現場を訪ねて」

野崎志帆 (KFC理事、甲南女子大学多文化  
コミュニケーション学科准教授)

19:00~20:00 総会

於 多文化子ども共育センター(moi)

■研修会

7月10日(土) 13:30~15:00

「中国内モンゴルとは」

於 多文化子ども共育センター(moi)

■日本語ボランティア講座(初心者コース)

5月15日(土)~7月31日(土) 14:30~17:00

於 アスタくにつか4番館

■ビール工場見学ツアー

5月30日(日) 12:00~15:00

於 西宮アサヒビール工場

■ハナの会七夕

7月7日(水)

於 デイサービスセンターハナの会